

・令和 2 年度実績について

(1) 施策の柱に沿った取組みの実績評価について

成田市文化芸術推進基本計画を総合的かつ効果的に推進するため、4つの施策の柱を設定し、その柱ごとの取組み（全 87）について現在、進行管理を行っています。

また、各取組みの進捗状況を確認するため、本計画の推進と実効性を確保するために定めた「計画最終年度（R5）の目標値」に対する達成見込みを、年度ごとに評価することとしています。

令和 2 年度の実績からみた、各取組みにおける「計画最終年度の目標値」に対する達成見込み【「令和 2 年度の実績から評価した計画最終年度における目標値達成見込みと主な取組みについて」参照】は、評価対象となっている 71 の取組みのうち、A 評価（達成できる見込み）となった取組みが 12 で評価対象取組み数の 16.9%、B 評価（達成できるかわからない）となった取組みが 9 で 12.7%、C 評価（達成できる見込みが低い）となった取組みが 2 で 2.8%、E 評価（その他〔事業終了、事業を予定どおり実施しなかったなど〕）となった取組みが 48 と全体の 67.6%という結果でした。

昨年同様、取組みの中で、その性格が目標設定にそぐわない 16 の取組みについては「目標値」を設定せず、実績により取組みの状況把握を行うこととしています。

なお、令和 2 年度の実績において、S 評価（十分達成できる）、D 評価（達成が見込めない）となった取組みはありませんでした。

① A 評価となった取組みについて

A 評価となったのは、情報発信に関する取組み等の新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい取組みや、感染症が収束した際には最終目標値の達成が見込まれる取組みなど 12 の取組みでした。

また、「コミュニティーセンター管理運営事業（イベントの企画）」については、事業内容の一部を体験から展示に変更したことから、参加者数（来場者数）が増加したことによるものです。

② B 評価となった取組みについて

B 評価となった取組みは 9 つありました。そのうち 5 つは令和元年度から B 評価としている取組みで、資料の収集事業など、①と同様にコロナ禍の影響を受けにくい取組みや、SNS やオンラインを利用して事業を実施した取組みなどがありました。

一方で、昨年度より評価を下げ B 評価となった 4 つの取組みは、ポスター展の開催などコンテスト形式の事業が多く、応募数などが令和元年度と比較し減少しているため評価を下げています。

③ C 評価となった取組みについて

C 評価となった取組みは、「まなび&ボランティアサイト」、「文化芸術センター管理運営事業（イベントの企画）」の2つで、市民の利用や参加などの実績値は最終年度目標値の6割程度の値となっています。サイトの情報源となるサークル活動の制限や感染症対策による来客人数の制限により、達成の見込みが低い状況にあります。

④ E 評価となった取組みについて

E 評価となった48の取組みのうち、26は「成田市民文化祭」など事業が中止となったものや「公民館主催事業」など実施回数が当初の予定より減ったことによるものでした。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業を計画どおりに実施できなかった取組みが過半数を占めており、コロナ禍の収束の兆しが見えず、最終年度における達成見込みを示すのが困難だったことによるものと認められます。

また、20の取組みは貸館や施設の維持管理に関する取組みであり、評価の指標となる利用者数や施設利用率が、その多くで最終年度目標値の3割から5割程度となっています。コロナ禍において施設の閉館や利用制限などを行ったことから、その影響を受け、サークル等の活動が制限され、利用者数が減少したことが要因と考えられます。

このように、多くの取組みが新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、その影響がいつまで続くのか不透明であったため、令和2年度の取組み評価時点においては、「計画最終年度における達成見込み」の評価が難しい状況にありました。

(2) 本計画の達成状況について

本計画では、施策の進捗や達成状況を確認するため、3つの成果目標を設定しています。計画の最終年度である令和5年度の目標値は、計画策定前の平成29年度に実施した「インターネットによる市政モニターへの文化芸術に関するアンケート調査」を基に設定していることから、毎年度同アンケートを実施し、取組みの実施が市民の文化芸術に対する意識や活動等にどのように成果となって現れるのかを確認しています。

「〈表〉3つの成果目標の現状値（成田市インターネット市政モニター 文化芸術に関するアンケート調査結果による）」は、令和2年度の結果についてまとめたものです。

【〈表〉 3つの成果目標の現状値（成田市インターネット市政モニター 文化芸術に関するアンケート調査結果による）】

目標項目	策定時 平成29年度	参考値 令和元年度	現状値 令和2年度	目標値 令和5年度
年1回以上、市内で文化芸術鑑賞を行った市民の割合	63.1%	53.1%	39.4%	72.0%以上
文化芸術活動を行った市民の割合	53.9%	41.3%	20.8%	60.0%以上
本市は「文化芸術活動が盛んなまちだ」と思う市民の割合	58.0%	53.0%	45.0%	65.0%以上

令和2年度の現状値につきましては、元年度と比較し、3項目全てにおいて減少しています。

目標項目：文化芸術鑑賞を行った市民の割合について

文化芸術鑑賞を行った市民の割合については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して外出を控えたなどの理由から、39.4%と令和元年度の53.1%から13.7ポイント減少しています。

その中でも、「音楽」などの飛沫リスクが高い分野については、新型コロナウイルス感染症の影響を大幅に受けた一方で、「美術」など、飛沫感染のリスクも比較的低いと考えられる分野については他の種別と比べ大きな変は見られませんでした。

目標項目：文化芸術活動を行った市民の割合について

文化芸術活動を行った市民の割合については20.8%と令和元年度（41.3%）から大幅に減少しました。

これは、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し活動を自粛したこと、また、「地域の芸能や祭り」及び「市民文化祭・音楽祭などの文化的行事」などの中止が相次いだために活動機会が減少したことが原因と考えられます。

目標項目：本市は「文化芸術活動が盛んなまちだ」と思う市民の割合について

本市は「文化芸術活動が盛んなまちだ」と思う市民の割合については、45.0%と令和元年度（53.0%）から8ポイント減少しており、他の目標項目と比べ減少幅は少ないものの、50%を割り込んでいます。

これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、文化芸術鑑賞や文化芸術活動など市民が文化芸術に触れることができる機会が減ったことが要因の1つと考えられます。